



NMCAA における、“アセンション”の学びと実践から誕生した光のネットワーク

『**根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu)SUN**』をリニューアルする事によって

自身が地球に生まれてきた意味(地上における自己のミッション)が、より明確になった感じがしています^^

地上セルフの誕生日(10月)に、どこか行かなければならない所があるような気がしていたのですが

写真のコーナーを見直しているうちに、(伊勢)神宮なのでは?と思えてきました

天照大御神を祀る伊勢神宮は、日本神界の中心であり、表玄関とも言われる神の宮です

前回訪れたのは2013年10月、20年に一度の遷宮の年

60年に一度とされる出雲大社の遷宮年とも重なり、日本神界全体が大きな統合へと向かう

まさに“第二の神話のはじまり”を予感させる、素晴らしい年であったのだと思います

今から思えば、その時の地上セルフは、ただ流れに身を任せてただけで

ほぼハイアーセルフ(& 高次連合)が中心となって進められた、遷宮祭であったような気がします

何故ならばそれは、単に日本人だけの事ではなく、

地球全体、宇宙全体における、新たな始まりのセレモニーでもあり

宇宙根源の一なる源、根源の究極の愛の太陽“**根源天照皇太神**”がこの地上(内宮)に降臨した

地球を雛型とする新宇宙(NMC)開闢かいびやくという、壮大なスケールの大遷宮祭であったからです

地上セルフは、その時受け取っていた圧縮ファイル?を、時間をかけて、ゆっくりと解凍していくことによって

様々な事を理解し(思い出し)、すべての根底にある“一なるもの”=“根源の究極の愛”が、

心と体に深く浸透し、∞の感動と喜びとなって、全細胞を満たしていくような——

根源のフォトンが、日(太陽)の本の民の持つ“皇の遺伝子”を、静かに目覚めさせていくような——

そんな日々を過ごしてきたのではなかったでしょうか?!

### **地上に降りた、根源の愛の太陽!**

それは、一人一人の内なる“根源の岩戸”を開く時が来た!という、合図でもあるような気がします^^

根源を旅立ち、悠久の宇宙史を経て、今この地上に生まれた人は、

そのための準備を重ねてきたとされ、自分を信じる勇気が、最も重要なのだと思います

自己の宇宙史における全ての次元のハイアーセルフを、地上セルフに統合した神人(皇人)となり

この地球上で、宇宙中の愛と叡智を結集した“NMC 創生”に参加、貢献していく事!

2013年の時にハイアーセルフが握っていたバトンを、地上セルフがこの手にしっかりと握りしめる事  
それが、今回(伊勢)神宮へと向かう意義と感じられて来ました^^

2013年の時と同じように、白山さんにて出発のご挨拶をし、熱田、伊勢へと出掛けました  
出発時、駅の2階ホールから眺めることのできる、いつもの白山が見えない。。。と思っていると、

後方から、魂を揺さぶるような、独特のリズムを刻む太鼓の音が聞こえてきました  
振り返ってみると、雪山から降りて来る、勇ましい“なまはげ”の姿?!が、モニターに映し出されていました  
何故今“なまはげ”？ですが、すごく印象的で、何か意味があるのでは？と感じました

また、駅のホームで不思議だったのは、自己の中心に、

明確に、地上から天上へと昇る、力強いエネルギーの柱がある！！と、感じたことです  
これらが何を示すのか？すぐには答えが浮かびませんでした。必要ならわかるはず！で、出発です！^^

出迎えてくれた？緑(木々)の眩しいアーチをくぐり抜けるようにして、熱田神宮本殿へ到着しました



コロナ対策のためのマスク姿も、もはや普通と感じられる今日、大勢の人で賑わっています  
七五三の、清々しく初々しいエンジェルハートに囲まれて、決意の正式参拝をさせていただきました！^^

本殿を写そうと携帯を構えると、画面の両側に、カラフルな縦じま模様が、はっきりと見えます？

正面には何もないので、後方にある看板か何かが、画面に反射しているのかも？

と振り向いてみたのですが、それらしきものはありません…



その時見た縦じま模様は、“五色の旗”のような？

五色からは、世界を形造るとされる五大元素(「地」「水」「火」「風」「空」)や、五大陸、五色人が連想され  
地底にあるとされる日本神界の中心“高天原”(シャンバラ)のエネルギーを感じます  
そのシャンバラの“五色の御旗”が、今地上に立っている！  
という、高次からのメッセージのような気がして、ワクワクしてきました！^^



2013年は、一面真っ白な光の世界でしたが、中今は中心にゴールド、“黄金の菊の輝き”?!を感じます  
熱田大神の荒御魂を祀る、“一之御前神社”へと進んでいくと、前方に  
真っ赤なシャツを着た男の子を、肩車して歩いている親子?の、細なが〜いシルエットが見えます  
なんだか危なっかしい感じで、目が離せないでいると  
その後姿から、赤い垂直上昇の矢印(愛の意志の第一光線)がイメージされ、  
必死にしがみついている子供が“ハム”に見えてきました  
“ハム”は、あらゆる全ての生みの母“根源太陽母神”のハートのカケラ、愛から生まれた、愛だけで出来た  
“究極の愛の子供”であり、赤い愛の意志の第一光線そのものです  
どんだけ愛なんだ?(笑)という感じですが、ハムは、決して特別な存在ではありません！  
どんな大人もみんな、幼い頃はお母さんが大好きで、素直な可愛い“ハム”だった、ではありませんか？

万物創造の源の、創始の“愛”——

根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu)SUN の hamu!! でもあります！^^

そう言えば。。。熱田大神の荒御魂は、天照大神の荒御魂と言われます  
お母さん(太陽)に会いたくて、必死に背伸びするハム?!の絵が浮かびます！

こんな感じ?^^→



ハムの親子に連れられて? 本殿の真裏までやってきました

2013年にここに立った時、自分を中心として、何か大きなエネルギーのようなものが  
四方八方に広がっていくのを感じて、不思議に思いました

かなりの時間が経過し、白山比咩神社昇殿参拝の時に聞こえてきた<sup>あまのむらくものつるぎ</sup>“天叢雲剣”と  
熱田神宮御神体である<sup>くさなぎのつるぎ</sup>“草薙剣”がつながって、その時何が起こったのかが、わかった気がしました  
神の剣をこの手にした、という事であり、先に述べた“バトン”であるのかもしれませんが^^

“天叢雲剣”と“草薙剣”は同じものとされていますが、次元や働きの違いがあるのではないのでしょうか？

日本神話において、スサノオが出雲国でヤマタノオロチ(八岐大蛇)を退治した時に、

大蛇の体内(尾)から見つかった、最初の神剣が天叢雲剣で

八岐大蛇の頭上には、常に群がった雲(叢雲)があったことから、そう呼ばれるようになったとの事です

ヤマタとは、八つの又=九つの頭を持つ九頭龍さんでもあり、白山の守護龍！

私がいただいたのは、白山神界の真っ白なフォトン(光)で出来た、“愛と創造の御剣”と感じます！

2013新宇宙開闢年のために準備されていた秘密兵器？！かも？^^

“剣”は武力(権力)の象徴ではなく、強い意志(意志の第一光線)を表すものではないのでしょうか

絶対に成し遂げる！と決意し、前に進む時、道は切り開かれる…

2013年以降の私は、何度も失敗を重ねながらも、そのようにして歩んできたような気がします



一面がクリスタルであり、そこにあるのは、太陽と地上をつなぐ、透明な光の塔——

中今の地上の真実であるような気がします

朝出発する時に感じた柱とは、まさにこの光景だったのかもしれませんが

このクリスタルの塔は、中今の地上の、私達自身の姿でもあり、

(根源)太陽の愛と光を∞に拡大するポータルです！

新しい地球は誰かが創ってくれるのではなく、喜びの光に輝く、私達一人一人から溢れる

高次元の波動の共鳴によって、創造されていく世界なのではないのでしょうか？

その意味で、自分を幸せにする事が、周りを幸せにする事でもありますが、

自己に意識が向かうとつい、「～してもらいたい」となり、逆効果となってしまう気がします

宇宙高次の科学では、「与えたものが与えられる」(共鳴の法則)であり、すべてに平等に働く真理です

そして“愛”は、宇宙に遍満する、∞のエネルギーなので

「与えた愛が、何倍にもなって返ってくる」が、宇宙唯一の法＝“愛の法則”と言われます

まず「自らが、愛のエネルギーを出す事」！ 一人一人が実践すれば、

愛の星地球は、想像以上に、あっという間に出来上がるのでは？！そんな気がします^^

出口を間違えてしまった？ ようで、駅を降りてすぐの所にあったはずの熱田神宮から、遠回りの列車の旅をして、再び名古屋市へ戻り、発射寸前の伊勢へと向かう列車に飛び乗りました  
(地上セルフはボンクラと思う、毎度の出来事です、笑)

私の乗った車両に、お客さんは一人もいない？ ようですが、一人ではないような。。

青紫に統一されたシートが、なんとも心地よく、知的で上品な空間を感じます  
New・GWBH(新白山連合)が連想され、その方々と一緒にいるような、幸せな気持ちになりました  
今回の伊勢では、どんなステキな事が起こるか？ ますます楽しみになってきました^^

2011年の伊勢で強烈な印象に残っているのが、外宮昇殿参拝の折にみた、<sup>らんりょうおう</sup>“蘭陵王”の舞です

<sup>ぶがく</sup>舞楽まである御神楽は高額なので、私にはちょっと手が出せませんが

その日は、同席の男性のおかげで、生まれて初めて、<sup>べつだいだいかぐら</sup>別大々神楽を見る事が出来ました！

<sup>にんじょうまい</sup>人長舞の時も感じていたのですが、なんだか普通と違う気がします…

蘭陵王が姿を現わした瞬間、人ではない？！という、驚きと興奮が起こりました  
足が宙に浮いていて、その場のエネルギーが動く！とでもいうような、とても不思議な、圧倒的な存在感です  
面の下の表情は見えませんが、心の底まで見透かされているような、迫力と威厳を感じます  
魂のスパーク？！言葉を越えた、異次元のコミュニケーション？！

神と人が一体となった“神人”が、突然目の前に顕れた！としか言いようがない気がします  
もしかしたら、その時の出来事は偶然起きたのではなく、“神界のイニシエーション”だったのかもしれませんが  
同席の方は、御神楽終了後に、神前の左手奥へと入っていかれたのを見て、  
外宮をよくご存知の方なのか？と、不思議に思っていたのです

**“神人”は、確かなこの地上の真実であり、私達が成っていくのだと——**

それから7年後の2018年に、愛知県の<sup>ますみだ</sup>真清田神社を訪れる機会がありました

蘭陵王の能面が重要文化財として保存されている事を知り、再び外宮へと意識がつながりました  
その時のコンテンツにも記しましたが、勇猛果敢な名将である蘭陵王は  
眉目秀丽とされ、余りにも美しすぎた為に、回りの兵達が見惚れて士気が落ちることを恐れ、  
<sup>どうもう</sup>獯猛な仮面に顔を隠して、戦に挑んだと言われます

事情があって仕方なく男性のふりをする、ロマンチックで少し切ない、少女マンガのヒロインのようです

2011年の外宮での舞には、覇気と威厳に満ちた男性性を感じたのですが  
2018年にふと浮かんできたのは、「もしかしたら蘭陵王は、女性だったのかもしれない。。」です  
あの時の蘭陵王とは、外宮大神の姿でもあり、戦に象徴される月(突き)の時代の間  
その美しさ(受容、愛、太陽)を隠して歩む姿だった——

2013新宇宙開闢、第二の神話がはじまり、それが反転した?!のではないのでしょうか？

男性性と女性性が統合された、さらなる進化であり、根源(究極の母性)への回帰なのだと思います

2011年は私がアカデミーに参加し、Ai先生(“根源天照皇太神”地上ポータル)と出会い、

その絆(サポート)のもと、白山に登った年です^^



白いハートが、赤に変わった！！

**真っ赤な“ハム”**と、**真っ白な“白山”**の、**根源の愛の物語のはじまり**でもあります^^

ということで、今回はどんな蘭陵王に会えるのだろう？とワクワクしましたが

経済的実状を鑑みて(笑)、控え目のワクワク？にしておきました

昇殿参拝(御饌)を申し込み、控室で待機していると、予定の時間になってもはじまりません？

神職の方より、「只今御神楽の準備をしておりますので、もう少々お時間がかかります」

との案内があり、なんと、2011年の時と同じ、別大々御神楽が舞われるとのことでした！(わあ~い！^^)

そして最後の舞楽に現れたのは、背に大きな美しい蝶の羽を纏った、二人の巫女でした(アラッ^^)

蘭陵王ではなかったのですが、ちょっとがっかりでもありましたが、

緑色の美しい羽が、新しい地球のようでもあり、舞い戯れる蝶の姿に、新生の喜びを感じました

神楽や舞について何も知らなかったのですが、自宅に帰って少し調べてみました

(以下ウィキペディアより)

一般に、「かぐら」の語源は、「神座」(かむくら・かみくら)が転じたとされる。

神座は「神の宿るところ」「招魂・鎮魂を行う場所」を意味し、神座に神々を降ろし、巫・巫女が人々の穢れを祓ったり、神懸かりして人々と交流するなど、神人一体の宴の場であり、そこでの歌舞が神楽と呼ばれるようになったとされる。

古事記・日本書紀の岩戸隠れの段で、アメノウズメが神懸りして舞った舞いが、神楽の起源とされる。

アメノウズメの子孫とされる<sup>さるめのきみ</sup>猿女君が宮中で、鎮魂の儀に関わるため、本来神楽は招魂・鎮魂・魂振に伴う神遊びだったとも考えられる。

天の岩戸の前で、アメノウズメが舞った舞が、神楽の起源だったのですね^^

これまでなんとなく見ていた感じの神楽でしたが、神と人との重要なコミュニケーションの場であり

そこには、莫大なエネルギーが動いていた事を理解しました

神宮の御神楽には、倭舞、人長舞、舞楽 1 曲、舞楽 2 曲の4つの段階があります  
舞楽は本来、対(番舞)となっていて、唐楽(中国唐代の音楽)を伴奏とするものを、左方または左舞、  
高麗楽(朝鮮半島の音楽)を伴奏とするものを、右方または右舞と呼び、  
“蘭陵王”は左舞(赤が基調)で、その番舞は、“納曾利”<sup>なそり</sup>とよばれる右舞(緑が基調)です  
今回舞われたのは、右舞で、“胡蝶舞”と呼ばれるもののようです

雅楽における胡蝶/蝴蝶(こちょう)とは、胡蝶楽/蝴蝶楽(こちょうらく)の雅楽の曲名であり、舞楽の一つ。  
春の日に舞い遊ぶ蝶を表した四人舞であることから「蝶」の名がある。胡蝶の舞/蝴蝶の舞(こちょうのまい)ともいう。  
高麗楽の様式に則って、日本で作られた曲。  
童舞(わらべまい)として作られ、原則として4名の少年が舞う。神社では巫女や少女が舞う場合もある。

2020年の舞楽が「蘭陵王」ではなく、その番舞とされる「納曾利」でもなく  
童舞の「胡蝶」であった事に、時代の完全なるシフト、大いなる転換！がイメージされます

#### 舞楽(神宮ホームページより)



蘭陵王(左舞)



胡蝶(右舞)

「童舞」や「赤を基調とする左舞と、緑を基調とする右舞」等のキーワードから、  
私の中に浮かんだ言霊が

根源の“赤”き太陽の如き神人“蘭陵王”から生まれた“緑”児(みどりご)！です^^

緑児の「みどり」には、新芽や若枝のように、瑞々しい生命力に溢れた様という意味があり  
生まれたばかりの赤ちゃんや、3歳までの子供を表す言葉であるようです

究極の母性から誕生した、瑞々しい子供

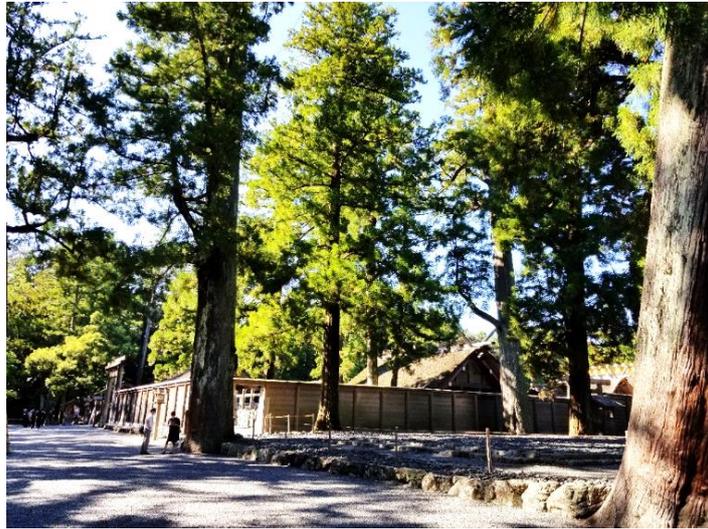
のイメージです^^

赤と緑は補色とされ、これまであまり意識した事がなかったのですが

「根源の瀬織津姫」コンテンツの中で、御祭神を稚日女尊とする生田神社について触れた時  
赤い社殿と緑の文字から、その対比の妙、奏でるハーモニーの美しさに、不思議な感動を覚えていました

補色とは、「混合して無彩色を作ることの出来る、2色の有彩色の組み合わせ」との事で  
左舞(赤)と右舞(緑)が番舞として交互に舞われるのは、個性(それぞれの美、特性)を表現しながらも  
常に調和し、ゼロポイント(無、根源)へと帰り、拡大・上昇していく世の進化の様なのかもしれません

今時代は緑(児)、瑞々しい根源の子供達へと引き継がれた？！緑児は、“ハム”？



外宮、神楽殿から“御正宮”へと向かう道です

何だか、影がゆっくりと動いているような。。。とてつもなく大きな世界を感じます

自転しながら太陽の周りを回る“地球”？のイメージでしょうか

“神宮”には、内宮と外宮があり、内宮が“太陽”ならば、外宮はその周りを回る“地球”です

マイクロコスモスとされる人の中心太陽＝“魂”が内宮で、

その周りを囲んでいる“肉体”が、地球(宇宙)であり、外宮です

万物創造の源、根源の太陽からみれば、広大な宇宙の全てが神宮であり

その具体的顕現の場である伊勢の地を、遷宮を繰り返しながら、今に守り伝えてきた日本は、

奇跡の国であり、真に宇宙の中心なのだと、あらためて思います^^

外宮 “御正宮”



この写真には、御簾の向こう側に寄せる人の思いが、見えるような気がします

心の底から湧き上がる感謝や願い、魂の叫び。。。。

人の心を一番知っているのが、地球そのものでもある、外宮大神ではないでしょうか？

それは、“いたましく思う心”、“慈愛”であり

内宮と外宮、御簾の向こう側にあるのは、同じ“根源の究極の愛”なのだと思います

豊受大御神の荒御魂を祀る“多賀宮”へと来ました

2013年にこの場所で撮った写真には、“白いハート”が観えました

白いハートとは、赤(真実の愛)を見失ってしまった、これまでの地球の姿でもあり

永い年月を、じっと待ち続けてきた、白山の女神の、深い慈愛の象徴——

根源の愛の子供である、真っ赤なハートの“ハム”が、白山に登った時から、常に見守り、

導いてくれた、優しい祖母のような存在であり、力愛不二の、新(真)・“蘭陵王”でもあります！^^



2020年の多賀宮は、白いハートではなく、微かな紫の光？

色(光線)は、全き光(太陽)の分光であり、その様々な働き(徳性)を表すものと言われます



そういえば、自身が今回選んだ、このコンテンツの文字色と、よく似ているような気がします

地上セルフが、そのサポートを感じている？という事なのかもしれません^^

“根源アセンションプロジェクト”は、根源までつながる∞の高次との、リアルタイムのコ・クリエーション！！

地上セルフの“愛の意志”を核として広がっていく、全く新しい、根源の愛と光の創造の場！

これまでどうであったか？より、これからどうしたいのか？！が、一番大事です！！^^

御正宮の隣にある、次の遷座地です^^



2013年の時、遷座を終えて何もなくなったこの場所が、私には何故か一番輝いて見え、  
不思議な気がしたのですが、大いなる希望の未来像！

根源へと続く、真っ白な光(∞の創造の光子)の道と、黄金の光の柱が見えていたのだと思います！^^

今回の伊勢で、是非行ってみたかったのは、三貴子の一柱である“ツキヨミ”宮です  
アマテラスとスサノオは、様々な形で伝えられていて、親しみがありませんが

ツキヨミに関しては、名前を知っているだけで、ほとんど謎です

私は、「本当はアマテラスとスサノオしか、いないのでは？」という感じがして

ツキヨミは、スサノオのもつ、もう一つの側面という見方が、一番シックリくるような気がします

これまでは、物質的な進化が重要視された時代(体主霊従、男性性中心)＝“月の時代”と言われ、

その象徴が、地上に君臨するスサノオだったのではないのでしょうか？

そして、スサノオのもう一つの顔、女性性(霊主体従)の側面は、“ツキヨミ”として月に隠されていた。。

今“太陽の時代”となり、両者が歩調を合わせて進む時代(霊体一致)がやってきた！

それが“神人”の時代、とも言えるのだと思います^^

NMCの核心である根源天照皇太神は、究極の母性であり、そのポータルであるアマテラスも母性です

そこから別れ出たのが、男性性の側面であるスサノオと、女性性の側面であるツキヨミ

このように考えれば、根源まで全てがつながっていくような気がします

外宮から少し離れたところにある、別宮の“月夜見宮”まで足を延ばしました



暗闇を照らす、ほのかな灯り…を感じます

あれっ？「ほのあかり」。。。？で浮かんできたのが“ほあかり(火明)の命”

あまてるくにてるひこあまのほあかりしたまにぎはやひのみこと  
“天照国照彦天火明櫛玉饒速日 尊” = “ニギハヤヒの命” です^^

天孫ニニギ(瓊瓊杵尊)の兄であり、太陽神とされるニギハヤヒが、月の神とは？ 矛盾している気がしますが

月(ほの灯り)の時代を陰から導く、“太陽神”と考えれば、なるほどです

ニギハヤヒが、スサノオの子供や子孫とされる事も、スサノオの天津神としての姿を表すもので

スサノオが、本来は天津神でありながら、国津神となったのは、

地上の全ての存在の、根源(太陽)への帰還・統合が目的であったからなのではないでしょうか？

“ツキヨミ”は、もう一人の“スサノオ”でもあります^^ 今浮かんだ事！

“太陽”と“地球”は、“アマテラス”と“スサノオ”という名前によって表される、個々の命ある星ですが

月は、恒星である太陽と、惑星である地球をつなぐために存在する衛星 = 宇宙ステーション？

だから私は、アマテラスとスサノオしかいないのでは？と感じたのかもしれませんが

今まで時を待ち、陰から地球を支えていた月の働き(女性性のスサノオ)が、前面に現れることによって

地球が、自ら光を放つ恒星へと進化していく、それは中今、“根源の太陽”でもあります^^

ネット上に、“なまはげ = スサノオ”の文字発見?!まさに、スサノオは鬼の面を被った善神であり

2018年には、ユネスコの無形文化遺産にも登録され、表舞台に現れた感じがします

朝駅で感じたのは、白山から地上へと降り立つ“スサノオ”の姿であり、その鼓動(太鼓)だったのかもしれませんが

同じ“ツキヨミ宮”ですが、用いられている漢字から、外宮別宮である“月夜見宮”には、統合された神界が

内宮別宮の“月読宮”には、その個性・役割である天界(宇宙)がイメージされ

月夜見宮は一つの社殿しかなく、月読宮は四つあることも、それを表している感じがします

初日は、熱田神宮を經由し、(伊勢)外宮で、ゆっくりとした時間を過ごすことができました^^

なんとなく本日中に、内宮まで行かなければならない気がして向かったのですが

「参拝は5時まで」と、バスを降りてからわかり^^;

仕方なく駐車場にて到着のご挨拶をし、外宮近くの宿へと引き返しました

翌日は、外宮御正宮を参拝の後、道開きの神とされる“猿田彦神社”へ向かいました



平日の朝で人影は少なく、整然とした美しさ、清らかさを感じました

“猿田彦大神”といえば思い浮かぶのが、越前国(福井県)一宮の“氣比<sup>けひ</sup>神宮”です  
御祭神は、主祭神である“伊奢沙別命<sup>いざさわけのみこと</sup>”(「氣比大神」又は「御食津大神」とも言われ、外宮大神が連想されます)

“仲哀天皇”、“神功皇后”の三柱が本殿に祀られています



日本三大鳥居に数えられる、見事な赤い鳥居をくぐるとすぐ左手に、末社の猿田彦神社があります

10年程前最初に見た小さな社は、風に飛ばされそうなあばら家？<∩>のような感じで、

大丈夫かしら…(笑)と思った程だったのですが、感謝の祈りを捧げると、

とても清らかで美しいエネルギーが一面に溢れ、そこはまさに“クリスタルの神殿”なのでした

“ハートフル”とか“フレンドリー”といった、なぜか西洋(天界)の言葉が浮かんでくる

涙がこぼれそうになる程あたたかい“ハートのエネルギー”を感じ

後に、「“猿田彦大神”は“キリスト”でもある」と、ネットに記されているのを見て、同感！でした^^

「道は愛にはじまり、愛におわる——」とのメッセージを感じます

愛の真文明創造・発進の場“根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu)SUN”の道開きを

ここ伊勢の地に鎮まる“猿田彦大神”に、御祈願致しました！^^



境内社の佐瑠<sup>さるめ</sup>女神社です

「俳優(わざおぎ)・神楽・技芸・鎮魂の祖神と仰がれる天宇受売命が奉祀されています。

天照大御神が天岩窟に籠もられ世の中が乱れたとき、天宇受売命が神楽をされ、そこに集まった八百万の神々が喜び笑い、天照大御神が再び現れ平和な世になりました。」

(ホームページより)

天の岩戸開きにおける重要な役割を担ったとされる、芸能の神、<sup>あめのうずめのみこと</sup>“天宇受売命”です  
艶めく美しさ、洗練された美、輝きを感じます

「天の岩戸の前で、天宇受売命が妖艶な舞を披露し、神々が喜び、大笑いしている様子を不審に思った天照大御神が、岩戸を開いた」という神話が伝えられています

妖艶な舞とあることから、私はこの場面に、女性性の解放を感じます

天宇受売命が、女性であることの喜びを、ためらうことなく全身で表現することによって閉じ込められていた本質＝“魂”の解放が起こったのではないのでしょうか？

すべての魂は“根源(太陽)神の分御魂”であり、それぞれの中心に輝く、眩い“太陽”そのものです  
地上の日戸(人)の中心太陽(魂)は、5次元(地上セルフに最も近いハイアーセルフ)であり

その源は、8次元の太陽系の太陽(オーバーソウル)とされ

全ての存在が相和し一つとなった、光の大海原、大歓喜の世界と言われます

天宇受売命の魂が解放される事によって、そのポータルとなり、この地上に歓喜の世界である

太陽神界(天照大神)を顕現した様子が“天の岩戸開き”なのではないのでしょうか？

“中今の地球”には、∞(次元)の根源へと続く“太陽の道(セントラル・サン・システム)”が存在します！

私達の内なる太陽(魂)から、地球の中心太陽へとつながり、さらに太陽系の太陽、銀河の太陽を経て究極には根源太陽まで続く、全き光(フォトン、球体の光)の道です

“中今”とは、「神道における歴史観の一つ。時間の永遠の流れのうちに中心点として存在する今。

単なる時間的な現在ではなく、神代を継承している今。」(デジタル大辞泉より)

過去も未来も同時にある“今この瞬間”であり、

神話は終わってしまった“昔話”ではなく、同時進行している、∞の可能性の未来とも言えます

天宇受売命が、天照大御神に向かって言ったとされる

「あなたより尊い神が生まれた」は、天照大神が進化した“根源天照皇太神”の事であり、

まさに、“根源の岩戸開き”の今を預言する言葉であるような気がします^^

“太陽の道”は、根源の愛と光を∞に拡大する、クリスタルの柱(NMCの中心軸)であり

多くの人々が、自己の魂に意識を向け、太陽道につながることによって、

その柱は、ますます太く、大きく、揺るぎないものとなっていくのではないのでしょうか？

それは誰か一人の力で出来ることではなく、

すべての人が、根源(究極の愛の故郷)へと帰る太陽道＝“根源へのアセンションの道”を

宇宙(神・天・地)の総力を結集して創造していく、∞のエネルギー場が

私の目標とする『根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu)SUN』です！(\*^\*)

猿田彦神社を後にし、今度は内宮の別宮とされる“月読宮”へと、歩いて向かいました



道路の脇に咲いている小さなお花が、とても可愛かったのでちょっと休憩^^

携帯ナビを手にしながら、散々回り道をして(どうしたらそうなる?),なんとか到着しました

内宮別宮の中で、荒祭宮に次ぐ順位とされる事が納得の、一大神域と感じました！



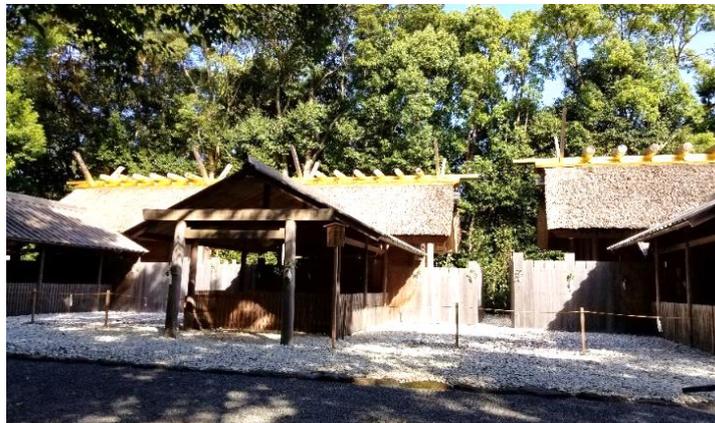
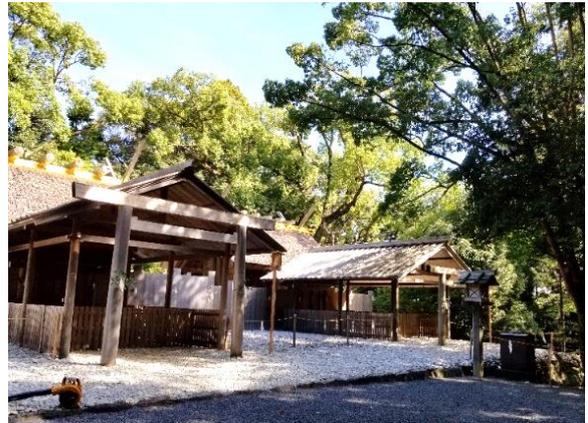
繊細で美しい光のシャワーを浴びながら参道を進んでいくと、手水舎の前に出ました

なんでしょ！この透明感？！



月は、陽の光をそのまま地上に映し出す、究極のクリスタルでしょうか？

そこから左手奥へと進んでいくと、4つの社が見えてきました！



一人でここに立つのは、少し気が引ける感じがします^^

4社を同じフレームに収めることが出来なかったので、下記神宮ホームページよりお借りしました

こちらは遷宮後の、真新しい社殿でしょうか？ピッカピカに輝いていて、

天から降ろされた“光の神殿”であり、まわりの自然がホログラム(幻影)という感じがします^^



神宮の遷座は東西間を移動する形で行われますが、ここだけは南北への移動との事

そこからなんとなく、地球の“地軸”がイメージされます

月の引力によって、一定の傾き(23.4度)を保っていて、そのバランスが崩れると  
気候の変動が大きくなって(異常気象)、地上の生命に危機的な影響をもたらすのだそうです

月が地球にとってかけがえのないパートナーであることを、あらためて感じました

月読宮は、月の地上基地なのかもしれません^^

御祭神は向かって右側から、月読荒御魂宮…月読尊荒御魂②、月読宮…月読尊①

いざなぎ 伊佐奈岐宮…伊弉諾尊③、いざなみ 伊佐奈弥宮…伊弉冉尊④ (○の中の数字は、参拝の順番を表しています)

ご祭神は月読尊。天照大御神の弟神で外宮別宮 月夜見宮のご祭神と同じです。

「月を読む」と記すとおり、月の満ち欠けを教え、暦を司る神であることを意味します。

との説明があります

これまで、“神”と“宇宙”は、全く別のものと考えていた私でしたが、

アカデミーに参加し、“神智学”や“アセンション”についての学びをはじめた事によって、

“スピリチュアル”と“科学”、“神”と“宇宙”は、

同じものを、別の言葉や方法で表現しているだけなのだと思うようになりました

上記の説明にもあるように、月は暦を司る神とされ、

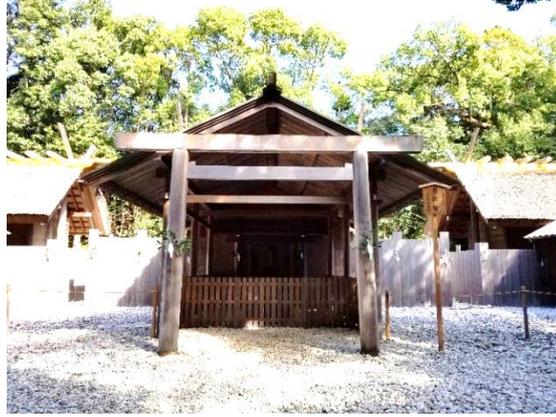
時間軸(時間という一つの決まり事)の上で生きる私達人類の進化を、管理、サポートしている、

人工衛星ならぬ“神工衛星”=宇宙ステーションなのではないでしょうか

この地で一緒に祀られている、“イザナギ、イザナミ”の二神は、白山比咩神社御祭神でもあり

月と深い関係を持つ、神々なのかもしれません

月の時代を終え、太陽の時代の幕開けを告げるのが、“白山菊理姫”ではないでしょうか^^



この場の中心とされる、“月読宮”です^^ 奥は真っ暗で、私には何もみえませんが  
新時代を創造する神人であり、新 G(ニュー・グレートホワイトブラザーフード)のメンバーなのでは？  
と感じていた“ニギハヤヒ”の尊と、“ツキヨミ”がつながり、  
また、イザナギ・イザナギの神は、白山比咩神社御祭神でもあるので  
“新 G”(新白山連合)に連れられて、必要があってここに来た?! のかもしれません^^  
私は、その隣の“月読荒御魂宮”が、ニギハヤヒであり、“月読宮”には、“セオリツヒメ”を感じます  
セオリツヒメが“和御魂”としてあったのが、これまでの月の時代であり、  
いよいよ、“荒御魂”となってその力を全開にする！ 根源太陽の時代がやって来たのだと思います！

準備万端?! (何が?ですが) いよいよ内宮へ到着です！  
伊勢の地を訪れてから、まだ一カ月も経っていないはずですが、ほとんど記憶が。。。 (笑)  
まるで、根源を発ち、地球へと降りてきて、再び根源へと帰ってきたような？  
長い永い時間を感じられます^^



2020年の内宮宇治橋上空、空一面に、これまで見た事がない不思議な雲があります？  
もしかして“豊雲野大神”？ 地球神である“国常立大神”の後ともいわれ、  
私は、真っ白な“月の女神”を感じます  
ずっと一緒に、ここまで来たのかもしれない？ (ありがとうございます^^)

内宮を進むにつれて、空(心)は青く晴れ渡り、喜びの光が満ちていく感じがします^^



隅々まで手入れが行き届いた、内宮の美しい御庭は、何度来ても感動します



別宮“風日祈宮”(かざひのみのみや)です

御祭神は、風雨を司る神とされる、級長津彦命(しなつひこのみこと)・級長戸辺命(しなとべのみこと)

私がここを訪れるのは二回目ですが、名前に惹かれて来たような。。。？

“地の時代”が終わり、“風の時代”が始まると言われます

地は物質的なものが尊重され、風は精神的なものが主流となる、軽やかな時代であるようです

そして、吹き渡る爽快な風！が、私にとってのGWBHでもあります！

風と日が重なったものが、“新GWBH”であり、根源の太陽を核とする、NMC創生システム  
御正宮や荒祭宮をサポートする、内宮における新G基地?!であればステキ♡!

想像=創造です^^



### 内宮“御正宮”

なんだか胸がジーンとしてきます

ここから感じる事は…

すべての人が、光に向かって、坂道を登っている——

どんな速さであっても、どこを通ろうと、その道は、**根源の太陽**へと続いている

それを、“**究極の愛**”と呼ぶのかもしれませんが

何があっても、必ず帰って来るといふ、100%の確信(信頼)こそが

**根源母神の持つ、宇宙最強の愛!**

私達は皆、その愛から生まれた、その愛以外にはなれない

**根源の、永遠の愛の子供。。。**

2013年に、この内宮に降りた“**根源天照皇太神**”とは、

宇宙のあらゆる全ての命を、生み、育み、慈しむ、**究極の愛の太陽**である、“**根源の母神**”です

その母が、私達子供を、そこまで迎えにきてくれた——、とうとう奇跡が起きたのです!

私達は、ただ**根源の子供**に帰る事、**真の自分を思い出す事**=“**根源の岩戸開き**”ではないでしょうか

天照大神の荒御魂を祀る  
“荒祭宮”



母なる美しい光の世界です

“天照大神荒御魂”といえば、兵庫県西宮市にある“廣田神社御祭神”でもあります

廣田神社本殿の中心には、強烈な光を放つ“御神鏡”があり

私はその光に魅入られるようにして、ここまできた。。。のかもしれませんが

そこにあったのは、究極に美しく、激しい、まるでむき出しとなった人の“魂”のようであり

荒々しいまでの、命(神、愛)の表出—— だから“荒御魂”と呼ぶのだと、今更ながら思う私です^^

そしてなんと、御神鏡に映るのは、自身の姿です

その中に見ていた光の強さや美しさは、自己の魂の強さ、美しさだったのでしょうか？

神とは様々な次元(レベル)の自分自神であり、御神鏡はその姿を映し出し、

究極の光の源へと導く、神化(進化)の映し鏡？

天照大御神の荒御魂は、“瀬織津姫セオリツヒメ”とされることを、私は2020年になって、初めて知りました

瀬織津姫は謎の女神？として、時々耳にする程度で、あまり関心がありませんでしたが

京都“上賀茂神社”参拝をきっかけに意識されるようになり(ニギハヤヒについてもです)、5月には

地元金沢にある“瀬織津姫神社”を訪れ、「根源の瀬織津姫」コンテンツが誕生しました^^

<http://ascension-hokuriku.net/2020-6-sirayamahime/2020.6.21.pdf>

“セオリツヒメ”は女性性の象徴であり、人類の女性のはじまり“イヴ”——

それは、中今を生きる全ての女性(男性の中の女性性)の姿でもあるのだと思います

2013年に私は、内宮のこの場所において、根源アセンションプロジェクト始動宣言！を感じ、

そう記しましたが、2020年の今は、地上セルフの、明確な意志のもとに

**『根源アセンションプロジェクト HAKU(hamu)SUN』始動！！を、宣言致します！！**

女性のはじまり“イヴ”として！この地上に生き、

根源の究極の愛の太陽へと帰還した“**根源の瀬織津姫**”として！！

それは、地上に顕現する、新しい“レムリア”の姿でもあり、  
この日を待ち続けていた、シャンバラ(日本神界の中心)の願いでもあるのだと思います^^

私が、瀬織津姫を知る前から、ずっと探し続けてきた“**菊理姫**”は  
瀬織津姫の、根源への帰還をサポートするために、未来(根源)からやってきた、**根源太陽の化身！**  
根源の光の中では、みなが一つ！です^^

根源の愛と光だけで出来た、新しい地上世界は、どれほど素晴らしいでしょう！！

素晴らしすぎて、想像(創造)できない？(笑)

“**ハムに任せとけ！？**”って、聞こえてきました！^^

新しい宇宙の核心＝根源天照皇太神(根源太陽母神)が、地上に降りた今、  
全宇宙高次が、私達の住む“地球”に注目しています  
そして、私達には想像もできないような“愛の光”＝新時代の“高度な文明の叡智”を、  
NMCの雛型として準備されたこの地上に顕現させ、  
協働創造していくための、揺るぎない意志を持つ、真の“ポータル”を必要としています  
その第一の条件は、究極のクリスタルである事！

限りなく純粋で清らかな、根源(創始)の愛と光を、∞に拡大する事のできる器

それが“**ハム**”ではないでしょうか！^^



一見、そのへんをチョロチョロしてるだけ？(笑)の“可愛いハムスター”ですが、  
この時のために生まれてきた、根源天照皇太神の分御魂、分身であり、

世界を薔薇色に染める、根源の愛の秘密兵器だった?!

ハム(根源の究極の愛)に、不可能はありません！！

自身の中のハムに、すべてを任せる！ = “根源のハムの岩戸開き” です！！

**ハムワンダーランド地球へようこそ！！**

<http://ascension-hokuriku.net/index.html>



2020.11.11 根源の究極の愛のハム 皇美(善美 rumines)